

令和2年度徳島県立図書館協議会の概要について

I 日時 令和3年1月19日(火)午後1時30分～午後3時30分

II 場所 徳島市八万町向寺山 徳島県立図書館 集会室1

III 出席者

委員(10名中9名出席)

表 聖司	NHK徳島放送局長(代理出席:河井 貴志 NHK徳島放送局副局長)
近藤 春菜	四国大学文学部学生
鈴木 綾子	徳島ペンクラブ副会長・事務局長
中 洋子	徳島県読書振興協議会会長
橋村 百恵	徳島県公立図書館協議会理事(美波町日和佐図書・資料館長)
平井 松午	阿波学会会長(徳島大学名誉教授)
美濃 円	徳島県高等学校PTA連合会副会長
余郷 裕次	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
横山 武文	徳島県学校図書館協議会副会長(坂野小学校長)
県立図書館	館長、副館長、館員
県立二十一世紀館	副館長、館員

※欠席委員

杉山 悦子 四国大学文学部准教授

IV 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 新委員自己紹介・職員紹介
- 4 会長・副会長選任
- 5 議事
 - (1) 令和元年度事業実績について
 - (2) 令和2年度事業について
 - (3) 「徳島県立図書館サービス向上目標(第3期)」の推進状況について
 - (4) 「徳島県立図書館サービス向上目標(第4期)」の策定について
 - (5) その他
- 6 閉会

V 概要

- 1 委員の互選により、会長に平井委員、副会長に中委員を選任
- 2 議事の(1)から(4)までは、事務局が説明

令和2年度 図書館協議会 質疑応答（概要）

【議事（1）令和元年度事業実績 （2）令和2年度事業】

会 長： 資料2－3で、県立学校の生徒・教員2万人に電子図書館のアカウント・IDを発行しているということだが、取り組みとして若い世代を読者につかせるというのは、非常にいい。卒業したあと、アカウント・IDはどうなるか。そのまま使えるのか。

事務局： ID・パスワードの発行は期間限定で、在学中が基本になる。卒業後は正規のID・パスワードを取得してMyライブラリサービスの方で、活用していただきたい。

会 長： 新しく入学した生徒にも、継続的に発行するのか。

事務局： ID・パスワードの発行は2年間の期間限定で配布される。

会 長： 広報して継続的にこの取り組みはしていただけるのか。

事務局： 教育委員会からの申し入れは令和2，3年度ということだが、県立図書館の将来のユーザーを呼び込めることにもなるので、できれば続けたい。委員のお子様にもIDがいているはずだが、気づいたことがあれば、教えていただきたい。

委 員： 学校に行っても、校内に掲示もなく、生徒の話題にもなっていなかったもので、もう少し広報してほしい。

事務局： 学校でしか使えないIDではないので、家でもお子様と一緒に利用していただきたい。宣伝にも力を入れたい。ありがとうございました。

会 長： 教育委員会とも継続事業という方向で話をしてもらったほうがいい。

委 員： 今後も電子書籍にも力を入れていくということだが、例えば講演をオンラインでも受け付けていくことは検討しているのか。今年、複数の県の図書館が講演会を開催したときに、直接来場するパターンとZoomで受け付けるパターンがあった。オンラインは全国的に広がっており、足の不自由な方も参加できる。御検討してほしい。

事務局： 予算のことがあるので、確定ではないが、例えば図書館集会室のWi-Fi環境を良くしたり、有料のZoomのソフトを買ったりということを画策している。今後はリアルとリモートの併用ということがあり、リモートを始めればいろいろと利用方法は広がるので、インフラを整備していきたい。また、リモートによる共同開催の案が持ち上がった際には、是非市町村の図書館の皆様には御協力いただきたい。

委員： 登録者数を増やすための取り組みは資料を見て分かったが、Myライブラリサービス登録者、市町村図書館等での利用者登録者、県立学校の登録者で、今現在何名が利用できるような体制になっているのか。

事務局： Myライブラリサービスの新規登録数については、2019年5月が61件、2020年の5月が101件になっている。部分開館があったので、増加数を確認した。

委員： 新規登録数ではなく、今現在利用できる方が何名位いるのか。

[補足] Myライブラリサービスを利用できる方の数 103,571名 (R3.1.19現在)
電子書籍の閲覧件数 も確実に増えてはいるが、母数はどうなのか。資料2-3にシステムを更改、一元管理とかいう記載があるが、これは県単位で全国的なシステムではないのか。

事務局： Myライブラリサービス等のサービスは、定期更新の時期にマイナーチェンジを行っている。登録をしていなくてもHPから当館の蔵書の検索はできるが、紙の資料の検索と電子書籍の検索が統合されていない。次の段階では紙の本と電子の本の両方を検索できないか。当館に電子書籍を提供しているKinoden（紀伊國屋書店）などでも議論に上っている。現在の技術でできることもあるので、次のサービスの拡大で、経済面と技術面とで折り合えば、やっていきたい。

委員： これからデジタル化、電子書籍化していく中で、各図書館ではコスト的な問題もあるし、利用していく側としても、統一性というのが求められる。

会長： デジタル画像については、国際規格もあるが、それが必ずしもいいかということ（そうではなく）、画像的には質が落ちる。それぞれの地域の守っているデジタル資産をどういうふうに出していくか。ものによっても違ってくる。

委員： 県立学校の児童・生徒、教員2万人にIDとパスワードと発行したとあるが、実際に利用している数は分かるのか。

事務局： 電子書籍閲覧サービスの全体の利用者は増加しており数も分かるが、中・高生、教員のみを対象に統計がでるわけではないので、明確な数はわからない。

委員： せっかく県立学校の児童・生徒、教員2万人にIDとパスワードと発行したのに、それがどれほど活用されているかがわからないのは問題だ。高校の方に、どれほど活用しているかということは聞けないのか。

会長： 個人を特定することになるので難しいと思う。先程の説明にもあったように、「全体のアクセス数が5.5倍になっている」には中・高校生も入っている、ということなので

はないか。

委員： バリアフリーの読書について、今後充実させていくとある。昨年末に点字絵本を借りたが、点字の点が取れていて読めなかったりしたので、貸し出しする人、利用者が少ないのかと考えた。点字絵本を新しく充実させるよりも、利用者やリクエストの多い資料に予算を捻出しているのではないか。バリアフリー法が施行されたということで、点字絵本をどう活用していくのか。

事務局： 実際に利用がなく、点字の資料が当館にはほとんどない。カセットテープに題字、タイトルの点字を打っているのもあるが、数が多いので行き届いてない面もある。一方で、デジタル図書や大活字本の収集に力を入れており、特に大活字本は、様々な方に利用していただいております（資料を）揃えるように努めている。個人、障がいの程度、状況によって必要なものも違うので、カウンターやお電話で利用される方の状態を聞きながら、提供できるよう努力していきたい。

委員： 点字の本がたくさんあって身近に利用できるようになってきているとは思いますが、そういうことを勉強したい方やボランティアに行きたい方も、一般の方の中にはいらっしゃる。少しでもいいので、その様子が見える資料があればありがたい。

委員： 資料2-3で、9月29日～11月23日まで「とくしまデジタルアーカイブ」を紹介する展示があったということだか、それはパネルで紹介したのか。実際にパソコンを使ってみられる状態にしたのか。

事務局： 「とくしまデジタルアーカイブ」の画面の一部をパネルで紹介したのと、博物館等が作成したデジタルアーカイブの楽しみ方・使い方の動画を流した。

会長： 「とくしまデジタルアーカイブ」は図書館や博物館、文書館が連携している企画で、HPに入ってもらって全部資料を見ることができるので、是非活用していただきたい。徳島の歴史などがよくわかる。

【議事（3）「徳島県立図書館サービス向上目標（第3期）」の推進状況】

会長： コロナ禍で、逆境の中で取り組まれている。目標値があるので、クリアしないといけないということだが、コロナ禍において、（達成が）厳しそうなのはどれになるか。

事務局： ②県内図書館の貸出冊数 ③レファレンス件数 ⑤ 連携事業総件数 の3点が厳しい。

会長： 目標が達成できない可能性があるのか。

事務局： 達成できない状況であった。

会 長： 特に、(今年は) やむを得ない事情があった、ということでしょうか。

【議事(4)「徳島県立図書館サービス向上目標(第4期)の策定」】

会 長： 令和3年度から7年度の新規目標について、ご意見と質問はないか。

委 員： 新型コロナウイルスの感染拡大の中、学びの森の講演会、読み聞かせ会など、感染拡大防止対策を施しながら多くの事業を実施していただき、非常に心強く、御努力に敬意を表したい。成人式も中止や分散開催している状況の下、図書館がコロナ禍でも対面でいろいろな行事(例えば子育て支援の赤ちゃんの読み聞かせにしても)を、諦めずに感染対策を講じながら取り組まれたことに敬意を表したい。

子供の数が団塊の世代の3分の1、第2次ベビーブームの2分の1になっている。そういう状況で、数値、数値と言って良いのか。徳島県民が80万人を切っている中で、入館者数40万人の目標値の算定は適切か? 苦しいのではないか。批判ではなく、御負担にならないように、ということだ。やがて、2060年には日本(人口)は8,000万人しかいなくなる。例えば、高齢者の車の免許返上などが、日本全体を先行する形で徳島県で起こる中で、「第4期数値目標」の一番下の)入館者数が足かせにならないかと思うが。

会 長： 現在は(入館者数が)43万人くらいで推移しているが、どうか。

事務局： ありがとうございます。私たちも「感染対策をして開館してくれてありがとう」と言われると嬉しい。

数値目標とは、今までは大概右肩上がりを設定するものだった。実際、当館では60万人位入館していた時期もあった。施設自体も珍しかったし、県民の人口が85万人位いた時でもある。あくまで今回のサービス向上目標は、図書館としてどんなサービスをどの位提供し、皆さんに本に親しんでもらうか、「知りたい」という思いにどう応えていくかということなので、これから先、徳島の人口が大きく減少し、入館者数その影響で減ってしまったとしても、その原因は説明がつくものである。少なくなったとはいえ、実際にリアルな本に触れて楽しんでいる方がどれほどいるか、ということを知るためには、入館者数もみていかなければいけない。コロナ禍で、入館者数が減り気味ではあるけれども、なんとか開館し(入館者数を)キープできている。決して右肩上がりで増やしていこうというわけではないが、いろいろな利用の仕方を提案させていただき、楽しんでもらえているかどうかを(入館者数で)計りたいということで、この目標値に定めた。

委 員： NHKの日曜日のラジオ第1放送「新日曜名作座」というのを、いつも楽しみに聞いている。中島京子氏の「夢見る帝国図書館」のことは、皆さんの方がよく知っていると思う。国際子ども図書館がもともとは帝国図書館だったという話から始まり、結局何に苦労したかということ、場所とお金。この「第4期サービス向上目標」もそうだが、蔵書を増やし続けられるスペースがいつまであるのか、という場所の問題と、コロナ禍でとてつもない財

政出動が行われていて、数値目標は心配だ。頑張ってもらいたい。

会 長： 数値目標は達成できなければどうなるということではなく、一種の期待値という位置づけでもいいのではないか。行政の中でどう評価されるか、とは異なる。

県民100人あたり、個人貸出冊数が全国4位、全国13位、県民100人あたり蔵書数が3位とある。徳島県民は非常に本に対する愛着がある、そういう県民性が高いと思うが、この数値は以前から高いのか。どうしてこんなに徳島県は高いのか。

事務局： この数値は、都道府県立の図書館で比べたものになる。政令指定都市とは競べていない。東京都立とは競べているし、大阪府立とも競べているが、政令指定都市があつて都道府県立以外に大きな図書館がある、というところとは一緒の条件ではない。

会 長： 政令指定都市を省いても評価できる。

事務局： 貸出冊数や蔵書数も中四国の図書館は多い。岡山県立は当館よりも（貸出冊数や蔵書数の）数字はずっと良い。島根県立、鳥取県立も多い。これをもって当館はすごいというわけではないが、徳島県立図書館は、やはり県下では一番大きい、中核としての役割を担っている。

会 長： 今までの絶対数から、県民一人当たりの数に変えたというのは、私は意味があると考えている。高い水準を維持しているわけだから、高い水準を今後とも維持していただきたいという意味で、第4期にこういう数値目標をいれたほうが適切だ。

事務局： 今回、（目標に）例えば児童資料の年間購入冊数をいれているが、予算的に約束されたものではない。私たちがサービスを提供したい時に、どれくらいの量と質で提供したいかを、客観的に計る数字ということで出している。これから県の予算自体がどのようになるかわからないが、図書館としては努力する、私たちの行動指針として掲げているものだ。

委 員： レファレンス件数が減っているということだが、この間、検索してみたら、たくさんのいろいろな本が出てきて、それを見てとても楽しかった。タイトルだけではなくて、目次、雑誌の特集などが全部出てきて、これも読んでみたいなと思った。実際に書架にいった探すのも図書館へ行く楽しみの1つではあるが、検索もおもしろい。多様な図書が検索に上がってきて、レファレンスの方までも行かなくても、検索でかなり（希望を）埋められ、それをみたら視点が広がる。もちろん調べたいことは、図書を借りて読むが。

会 長： 本のデータベースが多く、検索機能も高まっているので、瞬時にたくさんの数が出てくる。学生にも読んで欲しい。

委 員： 資料4の基本目標の、一つ一つのタイトルが前とは全然違う。血の通った、心が入った

表現になっているタイトルに感心した。このタイトルは素晴らしい。この協議会にきて、徳島って本当に素晴らしいと思うが、協議内容を県民が知らない。県民に知らせるためにどうすればいいか。例えば、県の広報紙で県立図書館のスペースをとってもらい、図書館の利用方法を県民に知らせられないか。また、各市町村でMyライブラリのサービスができるようになったということを広報でも見たことがない。各市町村の広報の中でも、宣伝していただきたい。

事務局： ありがとうございます。電子書籍も平成30年度からできるようになっていたが、ようやく地元の徳島新聞に、コロナウイルス感染防止に関する取材の中で取り上げていただいた。

市町村の広報紙を県民の皆さんはよく読んでいるので、連動して広報したい。地道に1回広報しただけではなく手を変え品を変え、いろいろとやっていく。(第4期目標の中に掲げている)「サービスをすべての地域の県民へ」は、電子というツールができたとしても、それを宣伝しないと達成できない。

会 長： HPに広報の項目を立てたらどうか。そうしてそこからレファレンスに入るように。

事務局： 今日、御意見をいただいて、もう一度内部の委員会でこの目標自体を見直す。この4つの「目指す図書館の姿」は、図書館の職員が、入ったばかりの人でも、この4目標が口について全部出てくるようにしたい。今のサービス向上目標の手法の案の中に、図書館の便利な機能は適切に広報するというところを入れ込めないか、委員会の中で十分に議論させていただく。

委 員： このような協議会に、徳島新聞社の記者は取材に来ないのか。いろいろな会には多くの場合来ている。

事務局： (この会は)公開になっている。

マスコミからも(協議)委員がきてくださっている。是非委員の方の意見なども伝わるようにしたい。今日の議論についてはHPで公開をさせていただく。また、いただいた意見そのものを宣伝に使わせていただきたい。

会 長： その他に何かあるか。

事務局： 現在、図書館1階のギャラリーにて企画展「図書館タイムマシン」を開催している。大正6年開館の徳島光慶図書館から現在までの、4代に渡る、4館の図書館の外観や内部を比較できる展示と資料の形態の変遷がわかる展示になっている。今週末までの開催になっているので、是非ご覧いただきたい。

事務局： 阿波学会紀要の第61号・第62号を用意しているので、興味がある方は持ち帰りください。最新号は3月に発刊予定となっている。次回の図書館協議会で配布したい。時期調査地は小

松島市の予定である。

会 長： 先程（向上目標第4期に）「徳島に関する調査研究推進」という項目があったけれども、我々阿波学会もその一端を担っていきたい。

それでは、ご意見も出尽くしたようなので、これをもって本日の議事を終えたい。